

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室 担当職員 池永
日 時	平成31年3月13日(水曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 3 時 17 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田（齊藤議長）		
出席理事者	【産業観光部】柏尾部長 [農林振興課]笹原課長 【まちづくり推進部】竹村部長、並河事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [まちづくり交通課]伊豆田課長 【上下水道部】阿久根部長 [総務・経営課]西田課長、人見水道経営係長、服部下水道経営係長 [お客様サービス課]柴田課長、大倉副課長 [水道課]河原課長、松永副課長 [下水道課]川勝課長、西田年谷浄化センター所長		
出席事務局	片岡局長、池永主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議

(小川分科会委員長あいさつ)

2 事務局日程説明

(事務局説明)

3 付託議案審査(説明～質疑、市長質疑項目の抽出検討)

[まちづくり推進部入室]

・第6号議案 平成31年度亀岡市土地取得事業特別会計予算

[説明]

- ・まちづくり交通課長説明(歳出・歳入一括)

[質疑なし]

[市長質疑項目抽出なし]

1 3 : 3 5

[上下水道部入室]

・上下水道部長あいさつ
(基本方針等)

水道事業、下水道事業については、人口減少や節水機器の普及などにより、料金収入が伸び悩む一方で、施設の老朽化が進行するなど、厳しい経営環境にある。市民生活を支えるライフラインとして、将来にわたり安定した経営を続けていくため、より一層の経営の健全化、効率化を図ることを基本に、平成31年度の予算編成を行ったところである。

水道事業については、老朽化工事などの老朽施設の改修更新が今後の大きな課題となっている。平成31年度は水道の安定供給を図るための老朽管の更新にあわせて、耐震化工事や上水場のポンプ設備等の更新工事の予算を計上している。本市の水道は15市の中で最も安い料金であるが、また一方、基幹管路の耐震化率は45%程度にとどまっている。今年度、中長期的な経営の基本として経営戦略を策定している。その中で、今後10年間の老朽管更新などの設備投資と財源見通しを均衡した当市財政計画を策定することにより、経営基盤の強化と財政マネジメントの構造に取り組んでいくこととしている。

次に、下水道事業であるが、こちらについては、水道と同様に施設の老朽化が進行している。来年度予算では、平成27年度から続けている年谷浄化センターの高度処理化事業に加え、下水道事業全体の機能保全とライフ・サイクル・コストの低減を目指した下水道ストックマネジメント計画による改築更新事業などを計上しているところである。経営については、平成31年度から地域下水道事業にも地方公営企業法を適用して、下水道事業の経営体制の一元化がスタートをする。それにより、より効率的で効果的な経営に取り組んでいく。水道事業と同じく、下水道事業も経営戦略を策定しているため、今後の施設更新や施設統合事業計画など、設備投資と財源見通しを均衡した当市財政計画を策定することにより、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでいくこととしている。

13 : 42

・第8号議案 平成31年度亀岡市水道事業会計予算

[説明]

・各課長説明（歳出・歳入一括）

14 : 10

[質疑]

<田中委員>

部長の挨拶の中で言った経営戦略は、平成31年度で作成できるのか。

<上下水道部長>

平成30年度で水道、下水道を作成しており、今最終段階である。作成できたら、議会にも報告したいと思っているので、そのときはよろしくお願ひしたい。

<田中委員>

水道のP1、年間総給水量が出ているが、このうち有償で、水道料金として回収できるのが約何%ぐらいなのか。

<総務・経営課長>

P1、第2条(2)の年間総給水量については、収入を得る水量となっており、実際に配水、浄水場から送っている水量とは違い、昨年度の有収水量については88.7%である。

<田中委員>

88. 7%というのは、ほかのところと比べて低いのか高いのか。

<水道課長>

大体90%がいい方向の数字ではあるが、亀岡市は特別にその数字が悪いということではない。大体平均的な数字になっている。ただ、漏水防止計画に基づいて90%を目指して、漏水調査等を行っているところである。

<菱田委員>

補正のときに田中委員が聞かれていた件だが、給水原価と供給単価は。

<総務・経営課長>

確定値としては平成29年度決算の資料だが、供給単価が124.25円、給水原価が134.59円である。

<菱田委員>

原価のほうが相変わらず高いが、予定損益計算書や今年度の予算書を見ていたら、ある程度は利益が上がっているということで、経営としてはうまくやっただいているかと思う。いろいろ工夫はされているが、その中で、今回、王子配水池の築造が載っている。どのあたりにつくって、どういう形で運用されるのか。

<水道課長>

国道9号の王子交差点の西南側に現在の王子配水池がある。王子の交差点から国道9号のめがね橋を越えたところに道路があるが、ここに今王子配水池の計画をしている。今年度ここで配水池の基本設計をして、それからトンネルを越えて西山霊園の上に西山の配水池があるが、ここへ水を上げていかなければならないので、加圧ポンプ施設等を設置する。基本設計と配水池の詳細設計については、今年度発注して今完成を迎えるところである。来年度はこの用地、それからこの王子並河線に今現在の王子加圧ポンプ場があるが、このポンプも大きいものをつけないといけないので、用地が必要になるので、予算に計上している。

<小川委員長>

P1で説明があった建設改良工事、千代川浄水場取水送水ポンプ等更新ということだが、これは規定の年月が来ているための更新なのか。それとも将来的に広域的なことを考えた送水のための改良なのか。

<水道課長>

今、千代川浄水場内には、取水が1号井から4号井までである。送水ポンプは1号ポンプから6号ポンプまで6台あり、平成25年から計画的に更新をしている。今年度については、1号の取水井のポンプと6号の送水ポンプの更新をする。場内にある取水送水のポンプは平成6年に設置したので、その老朽化に伴う更新となっているので、来年度でそれが全て完了ということになる。新たなポンプではない。

<竹田委員>

利用料の値上げが出てくると思うが、どのような見通しになるのか。

<総務・経営課長>

給水原価と供給単価が、今逆転している。幸い水道料金以外の収入で賄っている。特定事業等の整備が一定終わると、やはり水道料金で独立採算をしていかなければいけない。今後ますます老朽管の更新等耐震化を進めていく上では、事業費がたくさん見込まれるところであるので、経営戦略として、おおむね10年間の中期の整備計画、財政収支計画が今年度末に完成するので、その中では、すぐに1、2年で値上げというような事態は起こらないが、先を見据えて考えると、10年後に一気に何十%の料金値上げとかいうことを避けるのであれば、10年間で検証しながら、料金を見直していきたい。

<田中委員>

畑野町の水道も完成したが、地元分担金は10年ぐらいで払うということだが、どれぐらい入っているのか。

<水道課長>

分担金は覚書等で平成25年から分割納付をいただいている。今年度が最終になっており、この15日に振り込みをしていただいで全て完了となる。

14:21

・第9号議案 平成31年度亀岡市下水道事業会計予算

[説明]

・各課長説明（歳出・歳入一括）

14:47

[質疑]

<竹田委員>

高度処理の改良工事に関して、窒素とか富栄養化の減少ということを言われていた。要は今以上に水をきれいにして放流しようということだが、もう少しわかりやすく説明をいただきたい。

<下水道課長>

栄養、プランクトンが川を流れていき、大阪湾でよく赤潮というのを聞かれると思うが、栄養価が高くなると赤潮になって、河川、海が汚染されるということである。そこに流す水域の処理場等については高度処理、先ほど言ったものを改築するのだが、処理場を深く滞留時間を長くして、今までよりも窒素・リン等の率をもっと下げてきれいな水にして河川に流すというような内容である。

<竹田委員>

決して今、基準がクリアしていないというわけではなくて、よりきれいな水を流していこうということか。

<下水道課長>

そのとおりである。

<菱田委員>

第4条の2で、この債権の整理、未収金、未払金を細かく出していただいている。この未収金と未払金はどういう内容なのか。

<総務・経営課長>

地域下水道が4月1日から下水道会計に統合する関係で、公営企業会計を適用する上では、3月31日に出納閉鎖なしで決算を打つということで、各部署から未払金の集計をして、地域下水道の下水道使用料が検針月と請求月と収納の関係で3月に検針したものはどうしても4月に請求が出る。それが平成30年度の6期分ということで請求が出るので、使用期間については平成30年度で使用していただいた使用料ということで、それは地域下水道の未収金という形で上げたのが主なものである。未払金等については、各施設等にかかる電気代の3月の支払いは4月に請求が来る。また、委託料については検査が終わり、業務完了後に支払うものについては4月に支払いを打診するので、そういったものを未払金として計上している。

<菱田委員>

第6条の企業債だが、これには大体どれぐらいの利率で借り入れしているのか。

<総務・経営課長>

ここ数年、1%前後で推移をしているが、直近で借りたものは0.8%で40年償還である。

<菱田委員>

上水の会計もそうだが、支出のほうで賞与引当金繰入金と法定福利費の引当金繰入金というのが上がっている。3条予算のほうで全部上がっているが、ルールはあるのか。

<総務・経営課長>

企業会計独特の制度であり、発生主義といわれるところが原点となっている。6月の賞与については、算定期間が12月から5月までの6カ月間が賞与の算定期間で6月支給となる。ということは、12月から3月までは、前年度に在席した職員に対して発生した経費になるので、それを引当金に引き当てておいて、新年度の6月に、そこから取り崩して支払うというもので、6月分だけだが、6月分に係る6分の4を引当金に計上しておいて、そこから次年度に取り崩して支払うという制度である。

<菱田委員>

それは4条予算の関係ではないのか。

<総務・経営課長>

4条予算は現金ベースであるので、関係ない。

<藤本委員>

下水のP3の第9条で、下水道事業の財源に充当するため、一般会計からこの会計補助を受ける金額は7億9,523万円となっている。上水の場合は4,432万6千円であり、下水の場合は金額が大きいので、この要因はどういうことか。企業債返還が多いのか。

<総務・経営課長>

下水道事業の場合、やはり水道のように、きれいな水を送って料金をいただくということではなく、汚水を浄化して流すので多額の経費がかかる事業である。使用料だけでは受益者負担が大きいので、国の交付税措置や一般財源からの繰入金制度がある。建設ときに企業債を発行しているので、その2分の1は一般会計から償還ごとに分割して繰り入れていただいている。その割合によって、国からの交付税措置をされた手当を入れているので、どうしても借り入れの処理場の建設費を億単位で借りるので、償還のほうも多額になってくる。

<竹田委員>

年谷浄化センターの維持管理で委託が出ているが、私は年谷浄化センターへ行ったときに、少し服装の乱れが気になったが、苦情等そのようなことはあるのか。

<下水道課長>

服装の乱れの苦情は、今のところ受けたことはないが、また委員指摘のことがあったら今後気をつけたい。

<竹田委員>

市の職員以外、何人ぐらい委託業者の方々が日常的に来られているのか。

<下水道課長>

所長以下5名の職員がおり、委託業者は26名ぐらいである。年によって前後するが、それだけの人数が働いている。

<竹田委員>

普通一般の方が行かない場所だが、やはり一定市民の方から見たら市の職員というイメージを持つので、そのあたりは職員の挨拶等、今後委託業者に対して指導して

いただきたい。

<下水道課長>

今後、服装・言葉遣いも含めて、指導等について改めてメンテナンスの業務委託会社と話をしていきたい。

14:58

[市長質疑項目抽出なし]

[上下水道部退室]

15:00

<休憩15:00～15:10>

[産業観光部入室]

<産業観光部長>

昨日、当初予算の審査をいただいた中で、観光協会の活動内容等のわかる資料の提出依頼があったので、今お手元に亀岡市観光協会の定時総会議案書を提出させていただきました。なお、その中に入り込み客数があったが、P37に載っているもので、また後刻ごらんいただきたい。昨日の審査の質問に対して農林振興課長から追加説明及び訂正をさせていただくのでよろしく願います。

<農林振興課長>

昨日の質問の中で、田中委員より林道管理事業経費の中の市直轄管理の林道3路線について路線名等の質問があったが、林道名をはっきりと言えず、1路線については若干場所を間違えていたので訂正させていただきたい。3路線のうち1路線については、説明させてもらった寒谷の3番地から寒谷の1番地、大阪府高槻市の境であるが、その林道名が林道森谷線である。あと、保津町保津山3の5から京都市右京区の嵯峨水尾へ通じる林道であるが、その林道については林道松尾谷線である。あともう1路線、千歳町から京都市右京区の七谷線を説明していたが勘違いしていた。もう1路線の3路線目については、篠町の同じく市道の寒谷森線から篠町王子西長尾へ通じる林道西長尾線である。その3路線を説明させていただく。

もう一点、竹田委員から質問があった特産品等の振興経費の中で、丹波栗の生産振興事業の状況について、明確な数字を説明できなかったもので、この場でお答えさせていただく。出荷量は、平成23年度に2,086キログラムである。平成26年度には5,130キログラムが出荷されており、徐々にふえているが、それ以降の平成27年度から平成29年度は、天候等の関係もあり、平成29年度の出荷量は3,900キログラムで、減っている。平成30年度については、災害等の関係もあり、出荷量としては激減しており、777キログラムとなっている。しかしながら、栗の振興については、部会のほうで剪定方法や肥料のやり方、先進地視察などを行い勉強しながら出荷量等についてお世話になっている状況である。最後に、土地改良費の府営事業の負担金ということで、小川委員長から質問があった段ノ池地区の最終の工事完了の予定がはっきり言えなかったが、今計画している事業期間として、平成33年度を予定としている。

[産業観光部退室]

15 : 14

<小川委員長>

これまでに抽出された市長質疑項目を整理する。事務局から説明を。

[事務局主任説明]

<小川委員長>

詳細な論点については、正副委員長で調整し、次回の委員会で確認いただく。

～散会 15 : 17